

はじめに

平成 21 年 9 月 3 日、4 日の両日新潟県民会館に於いて、第 18 回地域がん登録全国協議会総会研究会および実務者研修会を開催し、有意義かつ盛会のうちに閉幕することができました。ひとえに皆様方のご支援の賜物と深く感謝申し上げます。がん登録による罹患数の把握はがん対策になくはならないものであり、登録の推進のみならず、標準化された信頼性の高いデータを得ることが求められております。また、得られたがん登録データの活用法として、がん対策の柱であるがん検診の精度管理への応用が重要と考え、本会のメインテーマを「がん登録とがん検診」といたしました。

パネルディスカッション「がん登録システムの標準化—その効用と問題点—」では、津熊秀明先生（大阪府立成人病センター）に座長をお務めいただき、味木和喜子先生（国立がんセンター）の基調講演「標準化のめざすもの」、大木いずみ先生（栃木県立がんセンター）、伊藤秀美先生（愛知県がんセンター）、藤田学先生（福井社会保険病院）、早田みどり先生（放射線影響研究所）が各県の登録室における標準化作業について講演、丸山洋一先生（県立がんセンター新潟病院）から院内がん登録の立場で問題点の指摘があり、柴田亜希子先生（山形県立がん・生活習慣病センター）からも特別発言をいただきました。特別講演には次期会長を務められる岡本直幸理事長に座長の労をお取りいただき、新潟県がん登録室小越和栄が「がん検診の精度管理と地域がん登録」のテーマで、がん登録データを用いた検診の有効性の検討が可能であることを報告しました。学術的ポスター演題は 12 題の意欲的な発表があり、道府県ポスターは 33 題で主に各地域の登録状況が紹介され、このうち 6 題がポスター賞に選出されました。

実務者研修会は、福井県立病院海崎泰治先生、大阪府立成人病センター井岡亜希子先生から病期分類とがん登録で用いる進行度分類について、宮城県立がんセンター西野善一先生、新潟プレストセンター佐野宗明先生から検診の精度管理の実際について講演していただきました。総会研究会プログラムに引き続き、「がん登録はどのようにがんの征圧に役立っているか—がん登録の利用—」と題し、同日、同会館で行われた新潟県がん征圧月間行事との共催で、公開講座を行いました。司会は新潟県がん登録室小越和栄とともに国立がんセンター祖父江友孝先生が務められ、大阪府立成人病センター大島明先生、新潟青陵大学中平浩人先生からがん登録の必要性が述べられ、新潟県がん登録室の内藤みち子、小松原秀一が新潟県のがん罹患のデータとがん検診の精度管理への応用について講演いたしました。

この度の総会研究会、実務者研修会、公開講座のテーマは、がん登録実務者の他、がん検診や診療録管理に携わる方々にも、広くがん登録への理解を深めていただく機会にしようと企画いたしました。今後の地域がん登録の発展にお役にたつことができたとすれば、総会研究会をお世話させていただいた者として誠に幸いです。座長をお務めいただいた先生方、ご講演、ポスター発表にご協力いただいた先生方に、あらためてお礼申し上げます。

（小松原 秀一）